

母校を訪ねる。毎日新聞東北版

この1か月に、毎週金曜日の毎日新聞東北版に「母校を訪ねる」コーナーに磐城高校の先輩諸氏の話が連載されています。

6月7日のハニーズHD代表江尻義久先輩を始めとして、今後様々な方々が母校を語っていきます。

私の同級生にも、様々な人物たちがいます。私たちは、高校30回卒で今年還暦の年回りです。毎年10月には同級生のゴルフコンペを続けていますので、近況をお互いに伝えたり、ほかの同級生の今の様子を知ることができます。磐城高校で、娘さんの授業を持つことがあったり、野球部の卒業生でやはり息子さんも野球部で活躍し、今は私の母校の大学で学んでいたり、卒業した大学の剣道部の監督を今やっていたり、地元の医師会の会長をしていたり、よくいく割烹の主人だったり、建築会社を経営して、南体育館までの通路に渡り板を作ってくれたり、寄付金を持ってくれたり、同じ学校の事務長だったりと様々なつながりの中で生きてきたことを実感します。

時には管をまいて嫌われたり、家庭の都合で疎遠になったり、連絡がつかなくなっていたりと、会いたい人たちも大勢いるのに思うようにいかないのも卒業して42年の現実です。

今回の先輩方のお話を読むと、磐城高校の人脈の広さと深さに改めて驚かされます。特に、在京同窓会の面々の奥深さを、ここ何年かの卒業生は、もっとよく知るべきです。9月7日の土曜日の15:30には、上野精養軒に必ず行ってください。このつながりを生かして、今の研究をもっと深めることもできるし、就職のために会社を紹介してもらうのもいいでしょう。この人脈を使わない手はないと思います。それくらいすごい先輩たちが大勢来るのです。

今年卒業した皆さんで、上野に行くことができる人は必ず来てください。校長も行きますし、同窓会長も必ず行きます。お金は心配ありません。きっと先輩たちが歓迎してくれます。

校長の同級生たちも大勢駆けつけてくれますので、紹介しますよ。会計士や税理士の資格を取って、会計事務所や税理事務所を都会で開業するためのノウハウを教えてくださいと伝えますので、ぜひ聞きに来てください。聞いたことがある東証1部上場の企業の社長や会長や相談役もたくさんいますので、内容をよく教えてもらい、就職の道を今から自分のものにしましょう。

世の中、段取りと人脈が8割を占めていくのです。後の2割は、フットワークとネットワークと努力です。ぜひ待っています。

